

Exploring the Future



TOYO KANETSU × CVC JAPAN

TKCV
PARTNERSHIP

投資&協業できる有望なベンチャー企業を探しています!

トーヨーカネツ・コーポレート
ベンチャー2号投資事業組合(TKCVⅡ)

エクイティ投資及びアライアンスに向けた御案内



CVC JAPAN



What is TKCVⅡ ?

- ◆ 当ファンドは、2018年10月、トーヨーカネツ株式会社（東証1部上場）が設立した2本目のコーポレート・ベンチャーキャピタル・ファンドです！（ファンド総額は、設立時5億円、2018年7月に3億円を増額し、現在8億円）
- ◆ 業務執行組合員（GP）として、CVC JAPAN株式会社が投資先企業の発掘・審査・投資実行・投資後のフォローを行います。非業務執行組合員（LP）のトーヨーカネツ株式会社も、その業務の一部を担っています。
- ◆ オープン・イノベーションを力強く推進し、ベンチャー企業とのコラボレーションにより、次の収益の柱となる新規事業立ち上げを目指します！

来たれ！有望なベンチャー企業！

トーヨーカネツ・グループとの アライアンスで、大きな飛躍を！

TKCVは、アーリー・ステージのベンチャー企業に積極的にエクイティでの投資を行います！

現在、トーヨーカネツ・グループと連携・協業して、
製品・サービス開発や事業構築をしていただけるベンチャー企業を探しています！

<http://www.tcconsulting.co.jp/tkcv>

AI/IoT/Robotics

当ファンドの5つの特徴

01 新規事業につながるベンチャー企業に投資

トーヨーカネツ・グループの新規事業につながる技術や事業シーズを有する未上場のベンチャー企業(未上場企業)に積極的に投資します。シンガポール、オーストラリア、米国を中心とした日本国外の企業にも投資します。現状の売上・利益ではなく、アライアンスの可能性や今後の成長性を重視します。

02 既存2事業(物流・タンク)と異なる領域にも投資!

「次の次の事業」、すなわち、第3の事業を構築するべく、トーヨーカネツ・グループの既存事業である物流やタンクとは異なる領域のベンチャー企業にも、果敢に投資します。50億~100億円規模の新規事業を投資先企業とのコラボレーションで構築したいと考えています。

03 フィナンシャルなリターンではなく、協業を期待

投資にあたり、資金的なリターンだけを求めません。また、投資先企業にIPO(株式上市)も求めません。トーヨーカネツ・グループと協業・連携し、なんらかの新規事業に寄与することを求めています!(海外企業には、日本での事業展開や製品販売の権利を付与していただけることも望んでいます。)

04 アライアンス・パートナーとして長期的な安定株主に

投資金額は、1社あたり2500万円~1億円です(平均5千万円)。ファンドであるため、ファンドの期限はありますが(1号ファンド:5年3か月、2号ファンド:7年3か月)、良好な関係の投資先企業の株式は、ファンド期限が来た後も、トーヨーカネツ本体で保有し続け、ベンチャー企業の安定株主にもなり得ます。

05 グループへのジョインも期待

最終的に投資のEXITとしては、①トーヨーカネツ・グループにジョインしていただくパターン(新規事業プロジェクトとしての取り込み)、もしくは、②独立した企業(関連子会社)として成長していただくパターンを想定しています。ただし、IPOをするなどして単体で成長していただくことも選択肢となっています。



ファンドの出資者・トーヨーカネツ(TKK)とは？

1941年に創業し、物流システムを扱う物流ソリューション事業と大型タンクを扱う機械・プラント事業を主力事業として実績を積み上げてきました。「物流・エネルギー分野のソリューションイノベーター」となることを経営ビジョンに掲げ、革新的・先駆的な技術を取り入れ、社会が直面する課題解決に果敢に取り組み、グループの持続的企業価値向上と社会の発展に貢献することを目指しています。近年はグループの更なる飛躍に向け、主力2事業に次ぐ第3の柱となる新たな事業を立ち上げるため、コーポレート・ベンチャーキャピタル(CVC)設立をはじめとした様々な取り組みに挑戦しています。

○物流ソリューション事業

物流センターにおけるマテリアル・ハンドリング(モノの移動/運搬)を主体とした物流ソリューションを提供し、Eコマースをはじめとした物流センターにおけるすべてのプロセスで設計から施工まで一貫して最適な物流システムを構築しており、高いシェアを誇っています。また空港業界向けにはチェックインカウンターからバゲージクレームまで、搭乗者の手荷物を運ぶ一連の空港手荷物搬送システム(BHS)を手掛け、日本の8割以上の空港に納入しています。

日本の現況としては、消費者購買行動の変化や労働人口減少などの物流業界を取り巻く環境変化が著しいなか、省力化・省人化を実現する革新的な技術によるイノベーションが必要となっています。そのためトーヨーカネツでは、海外から高付加価値製品の積極的な導入やAI・IoT等の最新技術を活用することで、高度な物流ソリューションを提供することを目指します。

▶ 主要納入先

・インターネット通販 ・空港 ・3PL(Third Party Logistics) ・小売/卸売/生協 ・郵便 ・製造メーカー



ソータシステム



ケース自動保管システム



BHS(チェックインカウンター)



BHS(バゲージクレーム)



○機械・プラント事業

国内外の主要エネルギー関連企業のプラント向けに液化天然ガス（LNG）、液化石油ガス（LPG）、原油向けなどの大型タンクの設計から施工までを手掛け、タンク製造のトップメーカーとして、国内外で製造したタンクは約5,700基を誇ります。インドネシアバタム工場では、各種タンク部材の製造拠点として活用しています。また日本国内の製油所、石油備蓄基地等において、タンクメンテナンス事業を展開しており、長年の大規模タンク製造・建設を通じて蓄積した技術・ノウハウを生かし、貯蔵設備運用の安全性の維持に寄与しています。

▶ 主要製品

- ・極低温タンク／低温タンク
- ・常温タンク
- ・圧力タンク（球形タンク）

▶ 主要納入先

- ・LNG液化基地／受入基地
- ・発電所
- ・原油輸出基地
- ・石油備蓄基地
- ・製油所



極低温タンク



圧力タンク（球形タンク）

○その他事業

▶ トーヨーコーケン株式会社



産業用機械

重量物輸送機のパイオニアとして、主に建築現場や工場などの省人化・省力化に資する製品であるウインチやバランスなどを製造・販売しています。

▶ トーヨーカネツビルテック株式会社



建築

共同住宅、福祉関連施設、店舗など多種類の中小規模物件を中心に、環境性能にも配慮した高品質な建築物の提供を行っております。また鋼管杭工事やゴンドラの設置等も行っています。

▶ 環境リサーチ株式会社



環境調査

アスベスト、シックハウス、騒音・振動、臭気などに関わる様々な調査・測定・分析を提供しています。さらに環境調査のニーズが複雑化する中、IoTを活用した調査・分析手法など技術開発に積極的に取り組んでいます。



トーヨーカネツ・コーポレートベンチャー 2号投資事業組合の概要

形態・根拠法：民法上の任意組合（トーヨーカネツとCVC JAPANの二人組合）

ファンド総額：8億円（トーヨーカネツ：799百万円 CVC JAPAN：1百万円）

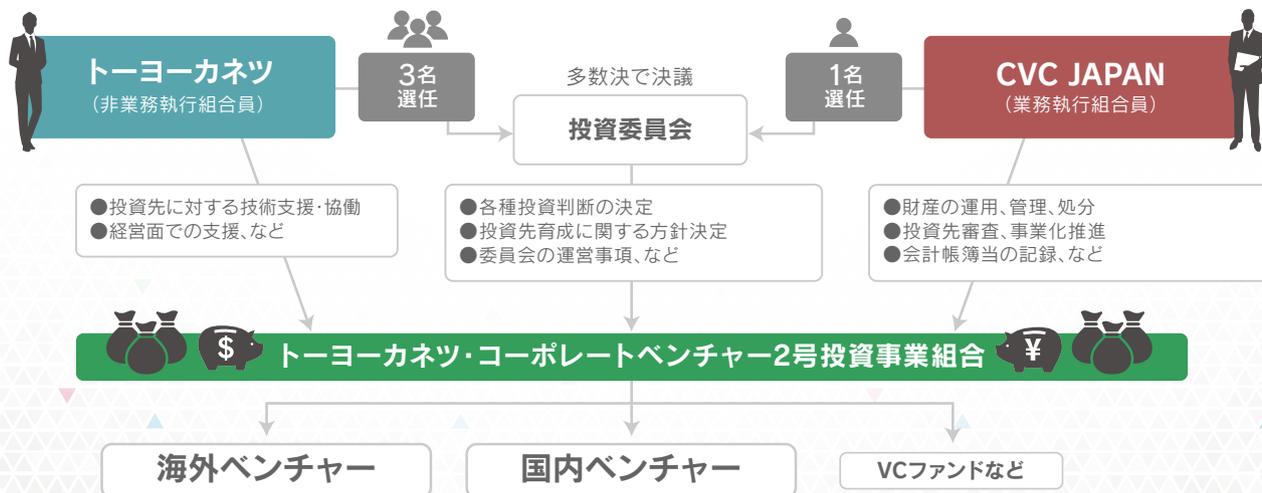
運用期間：2018年10月1日～2026年12月31日（7年3か月）※2年間の延長が可能

投資対象

- ①日本を中心とした未公開段階のベンチャー企業（米国、星国、豪州をはじめとする日本国外のベンチャー企業も対象とする）
- ②他の投資ファンドのLP持ち分

目標とする成果

- ①次代の新しい収益事業のもととなる技術や事業シーズを獲得し、新規事業を立ち上げる
- ②投資ファンドとしてのフィナンシャルリターンは成果目標とはしない





投資方針(投資対象)

TKCV2は、コーポレート・ベンチャー・ファンドとして、基本的に、次のような3つのタイプの企業に投資します。

- 1. TKKグループの新規事業立ち上げの技術シーズや事業シーズが獲得できるスタートアップ企業**
 - ・既存の2事業(物流・タンク)ではない事業領域でも可。むしろ、既存の2事業とは異なる事業領域が好ましい。
 - ・海外企業で、日本での独占事業展開権を提供してくれる企業(投資後は、JVの設立も検討)
 - ・ハイテクノロジー企業でなくとも、面白くて、ユニークな“ビジネスモデル”を発明し運営している企業
- 2. TKKグループの既存の事業(物流・タンク・建設)と事業シナジーのあるスタートアップ企業**
 - ・事業提携して、既存事業の事業拡大に寄与する企業・既存事業を補完し、進化させることに寄与する企業
- 3. 純粋にフィナンシャル・リターンが得られるスタートアップ企業**
(全体のポートフォリオの一部のみ)

■ 投資ステージ・投資手法

アーリー・ステージ(シリーズAの前のシード・ラウンドやプレ・シリーズAラウンド)
Convertible Note、または株式(Preferred StockかCommon Stock)

■ 投資エリア

・米国(サンディエゴを中心としたカリフォルニアがメイン)、東南アジア(シンガポールがメイン)、
オーストラリア(ブリスベンがメイン)、日本(東京を中心とした日本全域)

■ 投資金額

・1件あたり、2500万円~1億円で、平均5000万円

■ 当ファンドは、基本方針として、下記のような企業・事業領域には投資しません。

・ライフサイエンス/バイオテック/メディカルなど、人の生命にかかわる事業内容のスタートアップ企業
・社会への貢献のない企業

グローバル・ネットワーク

TKCVIIは、次のようなグローバルなネットワークを有しています。

■Singapore

BA Partners Pte Ltd.
(President : Mr. Ichiro Kawada)とシンガポールでの投資案件の発掘と投資先企業のフォローアップで、提携関係にあります。



■Australia

Japan Australia Business Creators Pty Ltd. (J-ABC, President : Mr. Haruhiko Kinase)と、プリズベンを中心としたオーストラリアでの投資案件の発掘と投資先企業のフォローアップで、提携関係にあります。



■San Diego

カリフォルニアのサンディエゴでは、UC San DiegoのJFIT (Japan Forum for Innovation and Technology)と、投資案件の発掘に関して提携関係にあります。

UC San Diego



これらの提携先からの紹介案件に、これまでにすでに数社のスタートアップに、投資しています。今後も、これらの地域でのアクティブな投資活動をしていきます。

投資委員会メンバー

委員長 ※キーマン条項における投資主要担当者

富田 賢

CVC JAPAN株式会社 代表取締役社長



Business Career:

米国系銀行を経て、独立系ベンチャーキャピタルの立ち上げに参画。多くのベンチャーに投資をし、上場へ導くとともに、自社VCも上場達成。その後、大阪市立大学・専任講師 (VC論) や住友信託銀行にてVCファンドへの投資の担当を経て、2008年～現職。2019年現社名に変更。約10年で200社以上の新規事業立ち上げやアライアンス、営業支援のコンサルティングを実施。IoTやAIに注力。2017年度～2019年度、立教大学大学院ビジネスデザイン研究科・特任教授 (ベンチャー金融論、ベンチャー企業論、アライアンス戦略論、技術経営論等)。2018年～カリフォルニア大学サンディエゴ校・客員研究員。著書に『新規事業立ち上げの教科書～ビジネス・リーダーが身につけるべき最強スキル』、『IoT時代のアライアンス戦略～人工知能の進化とマッチング数理モデルの提案』、『新規事業のためのCVC活用の教科書～オープン・イノベーションの実践ツール』など。日経BP社『日経ビジネス』主催セミナー等での講演多数。

Educational Background:

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 後期博士課程修了、博士号 (Ph.D.) 取得
京都大学大学院経済学研究科 修士課程修了、経済学修士
慶應義塾大学 総合政策学部卒業

委員

兒玉 啓介

トーヨーカネツ株式会社
取締役

柿原 明

トーヨーカネツ株式会社
常務執行役員 コーポレート本部 副本部長

國友 宏俊

トーヨーカネツ株式会社
執行役員 コーポレート本部 経営企画部長

お問い合わせ

御連絡・お問い合わせは、電子メールで、下記までお気軽に！

CVC JAPAN株式会社

〒107-0062 東京都港区南青山2-11-13 南青山ビル7階
(外苑前・青山通り。地下鉄・外苑前または青山一丁目から徒歩5分)

E-Mail info@cvcjapan.com

TEL 03-6455-5255 FAX 03-3470-8538

トーヨーカネツ株式会社

〒136-8666 東京都江東区南砂2-11-1
(地下鉄・東陽町から徒歩5分)

E-Mail tkk-cvip@toyokanetsu.co.jp

TEL 03-5857-3153 FAX 03-5857-3171



Exploring the Future

TKCV TOYO KANETSU × CVC JAPAN PARTNERSHIP